

研究テーマ：基礎的な単語を定着させるための工夫

所属 高知県立山田高等学校

氏名 小島 正登

RG SH6

(1) 研究の背景

対象のクラスは普通科2年生I型のクラスである。I型というのは4年制私立大学、短期大学、専門学校、就職という様々な進路希望生徒対象のコースである。山田高校では1年生の時に英語I、OC Iにおいて習熟度別クラスで授業を行っている。しかし、2年生の英語IIでは習熟度別クラスは行っていないため、2年生のこのクラスでは様々なレベルの生徒が集まっている。

このクラスの授業の状況は、まじめに取り組む生徒が多いが常に受身の状態である。つまり予習・復習がほとんどされていない。そのため授業中に予習・復習の時間を取らざるを得ない状況である。授業中の活動に関する取組は積極的にできるので、学校での学習と関連付けて家庭学習の定着をとも考えている。

(2) リサーチ・クエスチョン

「基礎的な単語力の定着にはどうすればよいか。」

(3) 予備調査

予備調査1. 授業観察の結果

英語IIの授業での生徒の様子は、単語の発音に関してCDを使いリピートさせているが一部の生徒しか声は出ていない。このクラスは単語力が乏しく、ほとんど辞書を使うことはない。受身で待っている。少し積極的な生徒でも辞書を使わず、単語集の索引で探している。

予備調査2. 家庭学習について

英語の家庭学習時間については、予習をしていない生徒が60%となっており、自主的な学習の習慣はついていない。

予備調査3. 英語力について

1学期の定期テストに関しては中間テスト平均72点、期末テスト平均69点とよい平均点が出ているが、5月6日実施のベネッセコーポレーションの基礎力診断テストでは英語のクラス平均が40.4点(校内平均41.3点)というように、範囲の決まったテストに関しては暗記して得点を取るが、今までの学習範囲となると平均点がぐっと下がってしまう。英語力が定着していないことがわかる。

予備調査4 アンケートの結果

一方で、英語の授業は好きな生徒が36%おり、授業の工夫次第では生徒の学習習慣の定着に結び付けられるかもしれない。

・英語の授業は好き・・・36.4% ・英語の授業は嫌い・・・63.6%

(4) 仮説の設定

家庭学習の調査の中で学習の内容を聞いてみると、「単語、熟語を覚える」という回答が7割ほどあった。しかし、定期テスト以外のテストや授業の様子を見てみると、単語の定着はあまりみられない。そこで単語力を定着させるために次の仮説を立ててみた。

仮説Ⅰ. 最初に綴りから入るのではなく、単語の意味の確認と発音練習を繰り返すことでその単語・熟語に興味関心が持てるのではないか。

仮説Ⅱ. 単語テストを実施することにより、生徒の単語・熟語への意識付けにならないか。

(5) 計画の実践

- I. 単元のはじめに今までよりも多くの時間を発音練習に費やす。授業中に辞書を使い、単語の意味を生徒自身が調べる。
- II. 前回の授業で学習した単語の確認テストを行う。

(6) 実践の結果

仮説 I. 最初に綴りから入るのではなく、単語の意味の確認と発音練習を繰り返すことでその単語・熟語に興味関心が持てるのではないか。

まず、授業の初めに CD を使って何度も単語の発音を聞かせたことにより、単語 1 つ 1 つがより身近なものになったと感じた生徒が増え始めた。今までのようにいきなり書く練習から始めるより、しっかりと読みを理解してからの方が定着しやすいと生徒も感じているようだ。

ただ、中には聞いているだけで CD の後のコーラスリーディングでは全く声が出ないという生徒も見られる。その生徒たちはやはり確認テストでも結果がでていない。

仮説 II. 単語テストを実施することにより、生徒の単語・熟語への意識付けにならないか。

確認テストでは 25 点中満点を取る生徒も 2 名ほど出てきたが、やはり多いのは 10 点～15 点の間であり 60～70% がこの位置に属している。その生徒達に調査すると「音はわかったがスペルを間違えた」というように、音読に偏りすぎたとも思われる。確認テストを行うことにより一定の成果は出たように思えるが、生徒のアンケートでは「確認テストの単語がしっかりと定着しているか」という質問に対して 60% 以上の生徒が「そう思わない」と答えている。

(7) 結果の検証

生徒達は最初、なぜこんなに何度も単語を聞かされるのかという感想を持っていた。しかし以前から生徒達自身も「この単語の読みがわからないから憶えられない」と言い、発音と単語力との関係に気付いている者もいた。そういう生徒は音読を続けるうちに、今までよりも語彙の定着が感じられるようになっていく。

しかし、やはりこの単語の学習に関する生徒の動機付けは、テストで良い点数を取るという一点に絞られている。そして 1 回のテストで良い点数を取ればそれで良いとそこで終わってしまっている。学習に継続性がないというのが現実である。実際に 1 学期の最後にまとめの確認テストを行った結果、1 度受けたテストにも関わらず平均点で 5 点下がり、同じミスや新たなミスをする生徒が非常に多かった。この結果はかなり厳しいものだと感じている。しかし音読や確認テストを継続することによってよい方向に向かっている生徒もいるので続けていくことが大切である。

(8) 成果と今後の課題

今回の成果としては、数名の生徒は音読からスペル、そして日本語訳という一連の流れを理解し、1 回のテストだけの学習ではないと理解できたことが収穫であった。生徒の意識も積極的、消極的いろいろなタイプがいるが、英単語を学習することに対し前向きにはなってきた。しかしやはり授業の方法に関して工夫が足りず、生徒が受身のまま授業が流れてしまっていることが多々あった。今後の課題はやはりこの点だと思う。いかにすれば生徒が自主的に学習するのか。今回は比較的生徒が取り組みやすい英単語の学習に焦点を当てたが、その他の事項でも同じだと考えられる。確認テストに関しても、2 学期からはレベルを中学校程度にして実施してみた。平均点はもちろん上がったが、点数があまり変わらない生徒もいる。英語に対して苦手意識を持っている生徒、つまり英語が嫌いな生徒が 50% いるクラスの中で、突然クラス全員が英語を好きになり勉強し始めるということはかなり困難であるが、「継続は力なり」で続けていきたい。また確認テストの内容も、せっかく最初に音読を行っているのだから音に対しても意識を持たせたい。